



川の上流、中流、下流で、見かけるトンボがちがうのはなぜ

卵を産む場所がちがうから

トンボが、川の近くや、水辺によく集まっているのは、卵を産むためです。どんなトンボの幼虫のヤゴも、水中で生活します。そのため、トンボのオスは水辺になわばりを作り、メスが現れるのをまっています。また、産卵をするまで、ほかのオスにメスをとられないよう、メスとつながっていたり、空中でメスを見守っていたりしています。

種類によって、ヤゴのすみやすい所がちがう

ヤゴは種類によって、冷たいきれいな水の中でしか育たないものや、かなりよごれた水中の、どろの中でも育つもの、流れのある水草の上でくらすものなど、さまざまです。

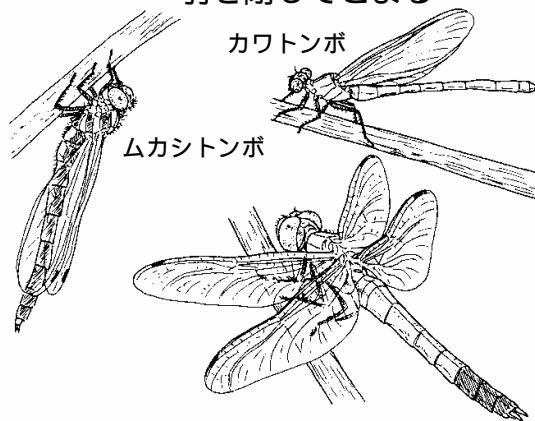
そのため、トンボによって産卵する場所がちがってくるので、見かけるトンボの種類も、場所によってちがってくるのです。

森に囲まれた谷川で見かけるのは、ムカシトンボです。やや上流のけい流にいるのがカワトンボの仲間、中流付近で見かけるのがサナエトンボの仲間です。

水の流れがゆるく、水草などがたくさんしげった小川や、田んぼに続く小川には、たくさんの種類のトンボが見られます。

トンボのヤゴは、川より、水の流れがない、池やぬまなどのほうが育ちやすいようで、池やぬまのどろの中などに、たくさん見つかります。(監修・中山 周平)

羽を閉じてとまる



羽を広げてとまる シオカラトンボ

